

【研究ノート】 フリーデンスファートをめぐって

— ウツジ Łódź とグスタフ・アドルフ・シュール Gustav-Adolf Schur —

船井 廣則 (ISC・21 研究員)

(1) フリーデンスファートとは

第二次大戦後に誕生し、中東欧諸国を中心に多くのファンを持ち、社会主義の崩壊以降もしばらくの間実施されていた自転車ロードレースの「フリーデンスファート」について興味を引かれて調べています。このレースはドイツ語圏では Internationale Radfernfahrt für den Frieden と標記されます。直訳すれば「平和を求める国際自転車長距離ロードレース」となるでしょうか。国際レースですから、参加各国それぞれの言語での名称がありました。

例えば、このレース発祥の地であるポーランドとチェコスロバキア(1993年1月1日にチェコとスロバキアに分離)では、ヴィシチク・ポコヨ Wyścig Pokoju(ポーランド)、ザヴォド・ミーロ Závod Míru(チェコスロバキア)と呼ばれていました。また、国際的にはフランス語のコース・デ・ラ・ペ Course de la Paix と呼ばれることもあったようです。ちなみに、英語圏ではピース・レース Peace Race と標記されました。いずれも「平和(のための)レース」を意味することから分かるように、第二次大戦後の中東欧諸国に残る緊張を緩和することを目的としてこのフリーデンスファートが開催されていました。以下競技の名称については、この小論では用いた史料の制約もありドイツ語の略称であるフリーデンスファートを用いることにします。

最初のフリーデンスファートが開催されたのは、第二次大戦終結後間もない1948年5月でした。これはワルシャワとプラハをそれぞれスタートとゴールにするというパラレルコースで同時日に開始されました。この変則的な開催の理由には、すでに前年の1947年に、ポーランドとチェコスロバキアが全く別個に自転車ロードレースを計画していたことが分かり、両者話し合いのうえでそれらを統合して開催することにしたという経緯があったようです。

レースの発案者として、ポーランド側はジグムント・ヴァイス Zygmunt Weiss とチェコスロバキア側はカレル・トク Karel Točl という二人のスポーツ・ジャーナリストの名があげられています。彼らが、1903年に始められ1930年頃にはヨーロッパにおけるスポーツイベントとしてのステータスを確立していたツール・ド・フランスをお手本としたことは、その規模と走行距離(開催期間23日間、総走行距離3000km超、21ステージ、ヨーロッパ以外の国籍を持つ選手も含め160名ほどが出場)を別にすれば、各ステージごとのポイントレースであったり、参加チームの順位などを示すジャージ着用などにも伺われますが、新聞社がこのイベントを後援したこと(ツール・ド・フランス=スポーツ新聞社ロト(L'Auto)、ポーランド=日刊紙(Trybuna Ludu: 護民官)、チェコスロバキア=共産党機関紙(Rudé právo: 赤い法則)も共通していました。

(2) レースの拡大

第2回から1951年(第4回)までは、年ごとにスタート地点のプラハとワルシャワとを交互に替えて実施されていました。1952年(第5回)からルートを東ドイツ国内をも含めるようになったのを契機として、ポーランド・東ドイツ・チェコスロバキアそれぞれの首都をスタート地点として年ごとに入れ替えながら、全長2000kmを超える長距離ロードレースへと拡大されました。参加チームも、当初の東欧各国を中心とする6か国から、1958年(第11回)までにはイングランド・デンマーク・ベルギーなど西欧の国々も参加するようになり、一時期は東欧のツール・ド・フランス(Tour de France of the East)とも呼ばれて、本家と肩を並べるほどの人気を誇りました。ツ

ール・ド・フランスと異なっていたのは、1980年代まではフリーデンスファートがアマチュアのロードレースであったことでした。

フリーデンスファートをもう少し詳しく知るための手立てとして、第1回(1948年)から第10回(1957年)までの、スタートからゴールまでのルートを結ぶ各ステージの都市名を、以下のよう
に一覧表にしてみました。また、末尾に付録として【史料-1】フリーデンスファートの中継都市.xlsx と
【史料-2】フリーデンスファート年表(1948-57).xlsx も添付しておきましたので、こちらも併せて参照し
て頂ければと思います。

【1948年第1回】(2ルートパラレル同時開催)

- ① WARSCHAU・Łódź・Breslau・Jelenia Góra・Liberec・PRAG 5ステージ 872 km
② PRAG・Pardubice・Brinn・Gottwaldov・Zilina・Kattowitz・Krakau・Kielce・WARSCHAU 8ステージ 1104 km

【1949年第2回】8ステージ 1259 km
PRAG・Pardubice・Brinn・Gottwaldov・Ostrava・Kattowitz・Breslau・Łódź・WARSCHAU

【1950年第3回】9ステージ 1539 km
WARSCHAU・Łódź・Breslau・Chorzów・Cieszyn・Gottwaldov・Brinn・Pardubice・PRAG

【1951年第4回】8ステージ 1539 km
PRAG・Budejovice・Brinn・Gottwaldov・Ostrava・Kattowitz・Breslau・Łódź・WARSCHAU

【1952年第5回】12ステージ 2146 km
WARSCHAU・Łódź・Chorzów・Katowice・Wroclaw・Görlitz・Bautzen・Ost-BERLIN・Leipzig・K.-M.-Stadt・BadSchandau・Hřensko・Plzeň・ČeskéBudějovice・Prag

【1953年第6回】12ステージ 2232 km
Bratislava・Brinn・PRAG・Karlsbad・Děčín・BadSchandau・K.-M.-Schtadt・Leipzig・Ost-BERLIN・Görlitz・Zgorzelec・Breslau・Kattowitz・Łódź・WARSCHAU

【1954年第7回】13ステージ 2033 km
WARSCHAU・Łódź・Kattowitz・Breslau・Zgorzelec・Cottbus・Ost-BERLIN・Leipzig・K.-M.-Schtadt・Bad Schandau・Děčín・Pardubice・Brinn・Třbor・PRAG

【1955年第8回】13ステージ 2214 km
PRAG・Kolin・Brinn・Třbor・Karlsbad・Dresden・K.-M.-Schtadt・Leipzig・Ost-BERLIN・Cottbus・Zgorzelec・Breslau・Kattowitz・Łódź・WARSCHAU

【1956年第9回】12ステージ 2214 km
WARSCHAU・Łódź・Kattowitz・Breslau・Görlitz・Ost-BERLIN・Leipzig・K.-M.-Schtadt(Chemnitz)・Karlsbad・Třbor・Brinn・PRAG

【1957年第10回】12ステージ 2192 km
PRAG・Brinn・Třbor・PRAG・Karlsbad・K.-M.-Schtadt・Leipzig・Ost-BERLIN・Görlitz・Breslau・Kattowitz・Łódź・WARSCHAU

上記の表に続く1958年第11回以降も、1980年代末に始まる中東欧諸国における社会主義の崩壊と、それに続く市場経済導入による混乱の時期を経て、2006年の最後のレースでその幕を閉じるまでフリーデンスファートは計58回にわたって(2005年を例外として)毎年継続して開催されてきました。

(3) ウッジ Łódź という街

1948年(第1回)から1957年(第10回)までのレース・コースを見ると、初回1948年のパラレルコースの片方を例外として、スタートやゴールとなったポーランドの首都ワルシャワ WARSCHAUの前後に表示されている都市名が全てウッジ Łódź であったという特徴に気づきます。しかも、第1回から第10回までに限れば、そのすべてに登場する都市はワルシャワとプラハを除くこのウッジだけです(資料-1参照)。ポーランドのほぼ中央部に位置するウッジは、現代ではワルシャワ、クラクフに次ぐポーランド第三番目の人口(約70万)有する都市ですが、第二次大戦当時のドイツ占領期には、首都ワルシャワ同様にユダヤ人らを隔離収容する区域であるゲットー

が市郊外に建設されました。その上ゲットー内での労働に寄与できなくなった、つまり労働不能と判定された住民をアウシュヴィッツ(オシフィエンチム Oświęcim)やヘウムノ(Chełmno)の絶滅収容所へと移送する拠点となっていました。

このようにフリーデンスファートの発展をたどる中で知ることになった都市名ウッジは、当然のことながら過去の戦争の傷跡を再確認する作業を伴いました。

そうこうしているうちに、偶然、中日新聞 2022 年 5 月 27 日付夕刊（【史料-3】参照）に、普段の日常生活ではめったに目にしないウッジの名を見つけました。シンクロシティとでもいうのでしょうか、「流転を生きる 消された出自 生涯問う — ポーランド ナチスに連れ去られた子どもたち —」の見出しの右横にはドイツとポーランドの地図が掲載されていて、その地図にはワルシャワの西南西あたりに「ウッジ」と示されていました。

Łódź の日本語カナ表記は「ウッジ」、「ウッチ」、「ウーチ」、「ウッチ」、「ウウチ」など様々で、グーグルマップやウィキペディアでは「ウッチ」を用いています。中には「ルージ」とか「ロウジ」などもあるようで、これらの表記だったら見過ごしてしまうこともあったかも知れません。

ナチズム＝国民社会主義の人種イデオロギーは、社会ダーウィニズムとアーリアン学説の影響を受けたものと言われていますが、1939 年 9 月 1 日にポーランドに侵攻したドイツ軍は、占領政策としてそのイデオロギーを実践に移しました。それは親衛隊と警察権力を手中にし、ヒトラーから「忠臣ハインリヒ」と呼ばれていたハインリッヒ・ルイトポルト・ヒムラー Heinrich Luitpold Himmler によって命じられました。

ヒムラーの占領政策のひとつは、ユダヤ人たちをそれまでの居住地から移住させ・隔離するための強制居住区域ゲットーを復活し、ワルシャワ(38 万人でヨーロッパ最大)に次ぐ規模のもの(16 万人)をウッジに建設することでした。こちらをナチズムに特徴的なクセノフォビアを象徴するコインの一面だとすれば、そのもう一つの面は、ヒムラーも信じていた似非科学的妄想であるアーリア人種(金髪・碧眼の北方人種)の優秀なドイツ人を増やす計画の実行でした。第二次大戦中のポーランドのレーベンスポルン「生命の泉」協会の施設はそれを目的としたもので、これもヒムラーの命によってウッジに建設(1942 秋)されたのです。

上述の中日新聞の記事では、「孤児やドイツに抵抗したポーランド市民の子ども、(占領軍の)意に従わなかった現地のドイツ系住民の子どもたち」が、ヒムラー指揮下の親衛隊によって集められたこと。そして、「髪や瞳の色、頭の形など 20 項目以上の検査に合格した子どもたち」を、将来の「優秀なドイツ人に作り変える」ためにレーベンスポルン協会の施設に送り込んでいたというその事実を、「ヘルマン」と呼ばれた自分の本名も両親の存在も知らない、現在 80 代半ばになる人物に焦点を当てて報じています。

記事に添えて掲載されていた右の写真(ワルシャワ公文書館)は、ウッジのレーベンスポルンで撮影されたもので、「ヘルマン」もこの中に映っているといえます。



(4) シューア Gustav-Adolf Schur とポーランド

東ドイツチームがフリーデンスファートに出場するようになったのは 1950 年の第 3 回からでした。当時はアウシュビッツ(オシフィエンチム)などの絶滅収容所が解放されてからわずか 5 年し

かたっておらず、ポーランド国内には同じ社会主義国の一員になったとはいえ、東ドイツチームの参加を歓迎しない人々がまだたくさんいました。

そんな戦後の空気の中で、東ドイツの伝説的自転車競技選手グスタフ・アドルフ・シューア(以下シューア)がフリーデンスファートにデビューしたのは1952年の第5回でした。なお、この1952年のレースからはポーランドの提案で、それまでの2か国を巡るコースが、東ドイツ国内を含めた3か国、総走行距離が2000km超へと拡大されることになっています。

デビュー戦でもあったからでしょうか、シューアはこの1952年のレースについて自伝(参考文献-4)の中でひととき詳しく叙述しています。興味深いのは、彼の観察の目はレースの展開に関するだけでなく、レースを見守る沿道の人びとにまで及んでいたことです。少し長くなりますが、以下にワルシャワのスタート地点に立つシューアが、当時持った印象を自伝から引用してみましょう。

(ワルシャワで)スタートを待つとき、私は群衆の中に立っているポーランドの老婆を彼女に気づかれないように見ました。彼女は道路の脇にいたので、私は彼女の顔から次のようなことが読みとれたように思いました。再びドイツ人たちがいる。彼らが引き起こした廃墟の真っ只中にある。彼らはここで何を望んでいるのだろうか？ 栄養満点の身体を包む黒、赤、金のチェストリングの入った、白いジャージ。

私は心配になりました。彼女はこの荒廃したワルシャワで何を経験したのでしょうか？ 彼女は家族から誰を失ったのでしょうか。息子。娘。それとも孫？ 私はそのシーンを決して忘れていません。その時、私は次のことを自分自身に誓いました。「お前は彼女とその同胞にこの苦しみを負わせた人々とは異なるドイツ人になるのだ」ということを(参考文献-3 S.56 筆者訳)。

シューアは1931年生まれですから、ヒトラーがドイツ系住民が虐待されていることを口実にポーランド侵攻を開始した1939年9月1日当時はまだ8歳でした。ましてや、今では自明となっているグライヴィッツ事件が、実はヒムラー麾下のドイツ親衛隊謀略部隊による自作自演の偽旗作戦であったことなど、まだ幼児であったシューアが知る由もないことだったに違いありません。しかし、第5回フリーデンスファートに初参加した年には21歳の若者になっていて、自分がポーランドを蹂躪した人びととは「異なるドイツ人になる」ことを誓っているのです。

また、このエピソードはこれで終わりではなく、それから48年後の2000年第53回フリーデンスファート第4ステージの中継都市となったライプツィヒでも、ドイツ第2TV放送=ZDFの記者を相手にシューアによって再び語られています。そしてそれはZDFの雑誌『Kennzeichen D』の記事となり、シューアがポーランドの老婆の表情から読み取った言葉は、次のような「流ちょうなドイツ語」に置き換えられて掲載されます。「ドイツ人がやってきて、土地や家を購入し、いつか戻って来るのではないかと心配しています」。

シューアは、この2000年第53回フリーデンスファートのプログラム冊子をパラパラとめくった時、ポーランド・チェコ間に置かれた各ステージの中継都市名に、かつてのドイツ語の地名が表示されているのを見て自分の目を疑います。そして自伝に彼は次のように書いています。

・・・そして、誰かがドイツ再統一後にフリーデンスファートを「脱イデオロギー化」すべきだったと私に伝える時 —それは本当に何度も起こったことなのですが— 私はただ次のことを確認するだけです。今日的なイデオロギーの問題にすり替えることに愕然とすること。そしてテレビのインタビューで私が答えたあのポーランドの女性の懸念を理解できることを告白しなければなりません。1952年には、適切に行動するために誰も私たちが「訓練」する必要はありませんでした。私たちはポーランドでのドイツの

犯罪について知っていました、そして私たちは東西ドイツの人々の間の正常な関係を回復するのを助けなければならなかったことを知っていました。(参考文献-3 S.56 筆者訳)

(5) まとめと今後の課題

うえで「今日的なイデオロギーの問題にすり替えることに愕然とする」とシューアが言うとき、1990年10月3日のドイツ再統一後においてもなお、旧西ドイツ側では、例えば映画『顔のないヒトラーたち』に見られたような、過去の戦争犯罪に対してそれがなかったかのように口をつぐむ人びとの罪深さについて確認しているように思えます。

シューアは1950年代を中心に、フリーデンスファート以外にもワールドカップやオリンピックで幾多の成果と名声を獲得し、東ドイツを代表する人気アスリートとなりました。ちょうどそれは1954年のゼップ・ベルガー監督率いる西ドイツチームのサッカーワールドカップ優勝が、敗戦に打ちしおれていた西ドイツ国民に自信を取り戻させたように、シューアの活躍は確実に東ドイツの国民を勇気づけ、新生の自国に誇りを持つきっかけを与えたことでしょう。そしてシューアは東ドイツ国民のロールモデルとなるとともに、当時の東ドイツ政府がアスリートに求めた「トレーニングウェアを着た外交官」の任務をも誠心誠意全力で遂行しました。

アスリートとして果たしたシューアの役割と、現役を退いてからの政治家としての活動については、次の機会を待って詳しく述べることにしたいと思います。

参考文献等と資料

1. Kleine Enzyklopaedie Koerperkultur und Sport Hersg. DHFK Leipzig Verlag Enzyklopaedie Leipzig 1960
2. Geschichte der Koerperkultur in Deutschland von 1945 bis 1961 (Band IV) Sportverlag Berlin 1967
3. Gustav-Adolf Schur TAVE Die Autobiografie (3.Auflage) Verlag Neues Leben Berlin 2011
4. Gustav-Adolf Schur Der Ruhm und ich spotless im Verlag Das Neue Berlin Berlin 2011
5. https://de.wikipedia.org/wiki/Internationale_Friedensfahrt_1948
6. https://de.wikipedia.org/wiki/Internationale_Friedensfahrt_1949
7. https://de.wikipedia.org/wiki/Internationale_Friedensfahrt_1950
8. https://de.wikipedia.org/wiki/Internationale_Friedensfahrt_1951
9. https://de.wikipedia.org/wiki/Internationale_Friedensfahrt_1952
10. https://de.wikipedia.org/wiki/Internationale_Friedensfahrt_1953
11. https://de.wikipedia.org/wiki/Internationale_Friedensfahrt_1954
12. https://de.wikipedia.org/wiki/Internationale_Friedensfahrt_1955
13. https://de.wikipedia.org/wiki/Internationale_Friedensfahrt_1956
14. https://de.wikipedia.org/wiki/Internationale_Friedensfahrt_1957
15. https://en.wikipedia.org/wiki/Peace_Race
16. 映画 『顔のないヒトラーたち Im Labyrinth des Schweigens』 監督 ジュリオ・リッチャレッリ 2014年製作 123分/PG12/ドイツ 劇場公開日 2015年10月3日

【資料一】 フリーデンスファートの中継都市.xlsx

【資料二】 Friedensfahrt Zeittafel.xlsx

【資料三】 中日新聞 2022年5月27日☆-4夕刊